

**中部の地域づくり委員会**  
**「リニア時代の“ものづくり”対流拠点形成の検討」意見交換会（第5回）**  
**意見要旨**

① 在日米国商工会議所 中部支部 理事 マイケル・ウィーニック 様

**【プレゼンテーション】**

- ・ここ20～25年で、名古屋は大きく成長し、今や国際的な都市になっている。
- ・アメリカ、ヨーロッパにおいては、それぞれの地域、都市がプライドを持っており、ビジネス、企業を求めて、お互い健全な競争を展開している。
- ・日本においては、多くの人が日本人であるため、それぞれの地域、都市が競争すると言う点では、少しアメリカと状況が異なっている。
- ・2027開業予定のリニア中央新幹線には、チャレンジとリスクが存在する。
- ・名古屋と東京が約40分で結ばれると、ビジネスが名古屋から東京に行くリスクがあるため、この地域が向こう10年間に何か対策を講じなければ、それが現実となる恐れがある。
- ・東京に約40分で行けるということは、名古屋や中部地域に大きな機会を与えるためこの地域が向こう10年間、いかにそのチャンスを楽しむかが重要である。
- ・リニア中央新幹線の開業までに、いかに準備をしていくかが非常に重要である。
- ・ビジネスにおいて、「なぜ会社が移転するのか」を考え、中部地域がより多くの企業を迎えることが出来るように準備する必要がある。
- ・過去10年間にトヨタ自動車も含めて9,000の企業がカリフォルニアからテキサスに本拠地を移転している。
- ・カリフォルニアは、連邦政府がないだけで、ビジネス、航空産業、自動車産業及びIT産業の中心であり、東京のような場所である。一方、テキサスは、様々な産業の中心地であり、名古屋に似ている場所である。
- ・企業がカリフォルニアからテキサスに移転する理由として、一つ目は雇用である。テキサスには多くの素晴らしい学校が存在し、その大学から輩出された人材は企業によって迎えられるというサイクルがあり、企業を引きつける大きな魅力がある。
- ・二つ目は、テキサスにおける生活費はカリフォルニアよりも安いという特徴があり、従業員はコストをかけずに中流の生活を享受することができる。
- ・三つ目は、テキサスはカリフォルニアに比べ土地の価格が安く、従業員はコストをかけずにマイホームを得ることができる。
- ・四つ目は、テキサスは市民税が無く、財産税なども非常に安いという特徴があり、非常に魅力的な場所になっている。
- ・五つ目は、テキサスは育児のサポート、教育施設及びレクリエーションが充実しているため、企業は移転先を決める際に、家族を幸せにする場所として選んでいる。
- ・六つ目は、テキサスにはきちんと教育を受けた人材が質・量とも豊富である。
- ・七つ目は、テキサスには世界に冠たる大学があり、毎年素晴らしい人材を輩出している。つまり、テキサス大学に行き、地元の企業に勤めて、良い生活を享受したいと考えている。

- ・八つ目は、テキサスにとって、ベンチャーコミュニティーが非常に重要な問題で、新しい事業をスタートさせるには良い環境（インフラ）をつくる必要がある。
- ・九つ目は、ローカルサポートが重要と考え、テキサス人は企業誘致にあたっては、非常に強いサポートをしてくれる。名古屋に企業を誘致する場合には、名古屋の人たちの強いサポートが必要である。
- ・最後は、カリフォルニアからテキサスに移転した企業は、ロジスティクス（物流）を非常に重要視している。名古屋は、世界でも有数の素晴らしい空港があり、高速道路や鉄道のリンクも良いため、ロジスティクスとしては非常に優れている。
- ・Amazonの本社はシアトルにあるが、非常に大企業のため、第2の本社を考えており、アメリカの新聞はこの話題でもちきりである。
- ・第2の本社は、100万人以上規模の都市圏であることを条件としているが、この点では、名古屋は条件を満たしている。
- ・また、安定的で企業にやさしい環境が必要で、技術人材を引きつけ、引き留める魅力がある都市でなければならないと言われている。
- ・名古屋の大学を卒業した学生の多くは、東京や大阪に行ってしまうため、教育レベルの高い学生を引きつけるだけでなく、引き留めることが重要である。
- ・Amazonは、野心的で創造性を持ち合わせたコミュニティーを推している。
- ・文化と生活の質、素晴らしい高等教育機関によって、多様な人材が支えられている環境が必要である。つまり、Amazonは、モチベーションが高く、質の高い人材を提供する大学があり、多様性を支える生活の質が高い都市を探している。
- ・橋を架けたり、空港や鉄道を造るといったハードの観点ではなく、ソフトの観点で、名古屋をいかに魅力的な街にするために、政治や企業が一体となって何ができるのかということである。
- ・2027年のリニア中央新幹線開業後、東京に人が移ってしまうのか、それとも名古屋に人が帰ってくるのか、ということは大きなチャレンジであり、テキサスの例などから学ぶところが多くある。
- ・名古屋がプロモートすることで、都市を企業にとって魅力的ある、そして人々が定着する街にすることができる。
- ・教育レベル、人材において、それを強化や振興していかなければならない。
- ・幼稚園から高等教育に向けて、名古屋は子供たちや学生に、より良いチャンスを提供することにより、良い学校に進むことができる。そして、学校を多様化する。
- ・世界中から教師が集まって、世界で重要とされることをカリキュラムとして教えているインターナショナルスクールの強さも軽視してはいけない。
- ・名古屋で高校を卒業し、名古屋の大学に入学してもらうには、大学を強化する必要がある。また、日本以外の世界の国や中部地域外から学生を呼び寄せることも必要。
- ・企業が欲する多様な労働力を確保するためには、その下地となる教育が必要である。
- ・名古屋はどの地域よりも恐らく後れているため、女性の力をもっと活用するには、名古屋が指導役となって、もっと職場に女性を受け入れる必要である。そのためには、育児のサポートをきちんと提供する必要がある。

- ・AI やロボティクスは、向こう数年間で大きく開花すると思われるが、人口減という問題を機械で解決するには無理があるため、名古屋が指導役となって、もっと職場に女性を受け入れる必要がある。
- ・高賃金の雇用を生み出すことにより、名古屋や中部圏で働き場所を見つけるというモチベーションを高めた学生が多く現れ、良い循環を生み出すことができる。
- ・名古屋に長期に住んでいる外国人が名古屋を選んだ理由は、生活の質が高いからという人がほとんどである。東京に比べ低い生活費や住宅費で、高い生活の質を享受することができるという点では、名古屋は東京に勝っている。
- ・新しく企業を中部圏に誘致するためには、インセンティブを多くつくる必要がある。
- ・名古屋を魅力的な街にするためには、ハードの側面において、庄内川、堀川、久屋大通をどう整備していくのか、ということが重要である。
- ・生活の質を象徴するようなランドマークをどう造っていくかということも、名古屋にとって非常に重要なことである。

### 【質疑応答】

- ・幼稚園から高等学校までの教育について、現在名古屋にはインターナショナルスクールが1つあるわけですが、増やしていかなければいけないと言う課題がある中で、どのような考えでしょうか。

⇒名古屋のインターナショナルスクールは競争を恐れず、数を増やす必要はある。

しかしながら、インターナショナルスクールの数だけでなく、現在の500人、600人規模で質の高い学生を如何に確保するかということを中心に考えて、数を増やす必要がある。

また、名古屋はインターナショナルスクールだけでなく、日本の既存の教育システムの大学、高校、中学校を如何に改善するかということも考える必要がある。

- ・大学の教育に関しては、世界中から優秀な大学院生を集めてくるという方向で進んでいます。名古屋の大学も含めて、日本の大学院での教育の方向についてどのような考えでしょうか。

⇒多くの外国の学生が、名古屋の大学を求めてやって来るわけで、英語での講義など、英語で教育のアクセスが確保できない限り、大学の強化には繋がらない。

鉄道、空港の第二滑走路よりも重要なものが教育で、都市として、名古屋がこれからより注力しなければいけないのは教育である。

- ・日本の場合、地方自治体が税制を大きく変えてインセンティブを出し、アメリカのように競争することが非常に難しいため、インセンティブ以外で差別化するとしたら、どういうことが考えられるでしょうか。

⇒インセンティブ以外では、生活の質が素晴らしい、質の良いワーク・ライフ・バランスを守る、学校をサポートする安全な場所、生活のコスト、中核地域にもっと土地があるなど、名古屋はとても素晴らしい地域であり、専門職の方々、洗練された人たちに対して、この名古屋の生活の質を売り込んでいくことが非常に重要である。

- ・ベンチャー企業について、名古屋の場合、県民性や地域性などで非常に保守的なところがありますが、テキサスは保守的な風土があったのか、もしあったとすれば、どのようにして変えたのか教えて頂きたい。

⇒テキサスやオースティン以外の都市は、非常に保守的である。重要なのは生活の質を守ることで、それは職の創出にも繋がる。新しい職を創ることはベンチャー企業の創出にも繋がり、生活の質も生み出すことになる。

- ・女性活躍推進は、宿泊サービスや通訳、プログラマー、デザイナーなど色々な分野がありますが、名古屋の場合、観光・レジャー、建築、ITなどが弱いため、そのあたりを拡充していくには、どういう視点がありますでしょうか。

⇒女性の地位向上について、それを実行している人は少なく、特に日本企業は少ない。名古屋の企業がステップアップし、東京以上に大きなジャンプをしたいということであれば、女性を登用して管理職に上げる必要がある。向こう10年間、名古屋が女性の管理職登用にもっともっと尽力すれば、恐らく都市にとって一番力になる。

- ・外国の方が日本に来られたときに、日本の幼稚園や小学生に対する教育内容に対して、どんな感想をお持ちか。テキサスでは公共教育に10億円投資したと言う話がありましたが、公共教育にお金を与えるときに、どんな教育内容であるか、テキサスで考えられた点について教えて頂きたい。

⇒教育というのは、様々なもの包摂していますが、名古屋に住む私たちにとっての教育は、名古屋で育った子どもが国際環境に適合することができることを意味する。日本の教育の背後に原則としてある哲学は、日本に住む限りはいいけれども、子供が成長して国際舞台に立った場合には役に立たないところがある。教育の結果として、モチベーションの高い、熟練した労働者になれると言うことが必要で、子供がきちんと職を得られるようにできることが必要である。

- ・日本で今話題になっているのは、母子家庭、一人親家庭のお母さんたちが9割以上働いているにも関わらず、賃金が低いため、次世代の子供たちの再生産がうまくいかない状況がある。働く女性たちの賃金を上げていくにはどんな工夫が必要でしょうか。

⇒名古屋の企業が大きな変化を遂げて、テキサスようになるまで現状が続いてしまうわけですが、もっと育児のサポートが必要で、働くお母さんたちがよりたやすく子供を育て、家庭の面倒を見るためのサポートが必要である。

誰かが立ち上がって、CEOや取締役などに女性を迎えるという大胆な一歩を踏み出さない限り、物事は動かないと思われ、企業に対して積極的に働きかける必要がある。

- ・庄内川は魅力あるウォーターフロントになると思うのですが、ウォーターフロントへのアクセスが我々にとって弱点であり、良いウォーターフロントがないのが現状である。名古屋には山はないのですが、ウォーターフロントがいいのか、その他の自然でプロモートできるものがあるのでしょうか。

⇒素晴らしい都市と言うのは、ニューヨークだとセントラルパーク、サンフランシスコだとゴールデンゲートがあり、必ずしもウォーターフロントである必要はなく、文化やレクリエーションの拠点として、世界中で認識されればいいわけである。

久屋大通公園は20年、30年の歴史があり、アーバンデザインとして実験的な場所でしたが、今はランドマークではありません。久屋大通公園を大きな緑地にするなど、シンボルを造るには大胆な発想が必要である。

- ・グレーター・ナゴヤというのは、素晴らしいアイデアなのですが、グレーター・ナゴヤを考えた場合、どのようにプロモーションすることができるのか分からない。大都市圏をプロモートするときに、どのようにプロモートしていくのか、というアメリカのやり方について教えて頂きたい。
- ⇒都市のブランディングをするためには、県レベル、市レベルで強いリーダーシップが必要で、みんながメリットを得るためには、声を一つにしなければならない。そのときには、ブランディングの対象は‘ナゴヤ’なのだという強い声が必要である。
- ・名古屋の街をもっともっと活性化するためには、企業がどういうアピールをしっかりと、地域社会に対して溶け込んでいくか、良い関係を築けるのかという点について教えて頂きたい。
- ⇒企業はもっとソフトの観点から地域をサポートする心が必要である。もっと学校に貢献するとか、インターナショナルスクール、地元の公立高校に行き、製造業に関するインスピレーションを子供に与える必要がある。
- また、企業はもっともっと女性を活用する必要がある。
- ・この地域の生活費は安いのですが、この部分はもう少し高くてもいいとか、この部分は徹底的に合理化するとか、コストのかけ方、メリハリについて教えて頂きたい。
- ⇒何かゼロから作り出す必要はなく、価値を維持しプロモートしていく必要がある。
- 今ある資産をきちんと認識し、向こう10年かけて、より理想な形に近付けることができれば、グローバルな競争力が発揮できる都市になると思われる。
- また、その都市がきちんと国際化に向けて準備ができていないこと、あるいは、その都市の抱える雇用・労働者が国際化に向けて準備ができていないことが非常に重要である。
- ・会社が移転するための10の項目について、その中でも特に名古屋が欠けている、名古屋がやるべきと思われるものを3点ぐらい挙げて頂けますでしょうか。
- また、名古屋の魅力、ブランディングになるのではないかというPRポイントがありましたら、指摘を頂けますでしょうか。
- ⇒ロジスティック、運輸、交通、ビジネスライフは非常に重要で、これは都市の強みなり、事業にとっても非常に重要な要素である。全てのところで競争する必要はありませんが、名古屋はレクリエーションや生活の質が強みである。生活の質、教育というのは名古屋がきちんとできることで、目に見えるものである。
- よって、生活の質を次のレベルにもう一つ押し上げることで、新しいものを発明する必要はない。東京と勝てないところで勝負をする必要はなく、重要なのは強いところを強化し、より良い教育、より良い労働の質を上げていくということである。

以上